

【要点】①正負の数

(1) 数の大小 …… 数直線上に基準の点（原点という）をとり、原点より左の方向（負の方向）へ行くほど数は小さく、右の方向（正の方向）へ行くほど数は大きくなる。

(2) 符号 …………… 符号には、正の符号（+）と負の符号（-）があり、通常+は省略する。

(3) 絶対値 …………… 原点からの距離のこと。

[例] 絶対値が3となる数は何ですか。 (答) +3 (3) と-3

(4) 数の大小の比べ方

①数直線を書いて比べる。

②その数の絶対値をとり比べる。

→ 正の数では、絶対値が大きいほど数は大きくなり、負の数では絶対値が大きいほど数は小さくなる。

[例] 2.3, -4.5, -3, 7, -8 の中で、2番目に小さい数は何ですか。

(答) -4.5

《解説》

3つの負の数の絶対値はそれぞれ、4.5, 3, 8となり、負の数では絶対値の値が大きいほど数の大きさは小さいので、2番目に小さい数は絶対値の値が2番目に大きい-4.5となる。

(5) 整数の種類 …… 整数には、負の整数、0、正の整数（自然数という）がある。

